

<学校教育機関や都市住民と交流している事例>

「山・里・海」を活かして都市の若者との交流に取り組む

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	石川県七尾市中島町外、小牧協定			
協定面積 21.5ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	米			
交付金額 406万円	個人配分			22%
	共同取組活動 (78%)	農用地の維持管理費		19%
		研修会費等		19%
		農道の維持管理・補修等		35%
		担当者活動経費		5%
協定参加者	農業者62人		開始:平成12年度	

2. 制度取組の経緯

当地区は、波のおだやかな七尾湾に臨み、牡蠣の養殖地として知られている。後継者不足が懸念されるなか、農業従事者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の発生等が課題となっていたため、本制度に取り組むことで、集落の農地を地域の財産として守り、美しい里山景観を次世代へと引き継がれるよう、集落全体で支える体制を確立してきた。また、外・小牧地区中山間地域活性化協議会を設立して、地域の活性化に向けた各種活動にも取り組んできた。

3. 取組の内容

水路、農道の補修・改修を行うほか、共同機械での一斉防除を行い、耕作放棄地が発生しないよう集落ぐるみで農地保全を図ってきた。第3期対策からは、維持困難な農用地が発生した場合の強化策として、集落ぐるみで農地を守る取り組みを行っている。

地域の活性化策としては、毎月2回、60～70歳の主婦が中心となって「おばば会直売所」を開催して、地元で採れた新鮮な野菜や山菜などを持ち寄って販売し、都市部の消費者との交流を図っていることや、休耕田を利用した菖蒲の栽培に取り組み、町内3箇所の公共温浴施設に提供している。

また、伝統行事「虫送り」や「お熊甲祭」を都市部の大学生等からの参加者を募って実施し、集落内の連携強化だけでなく、都市部との交流による地域の活性化を図っている。



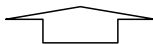
【おばば会直売所の開催】



【大学生を交えた虫送り】

[集落の将来像]

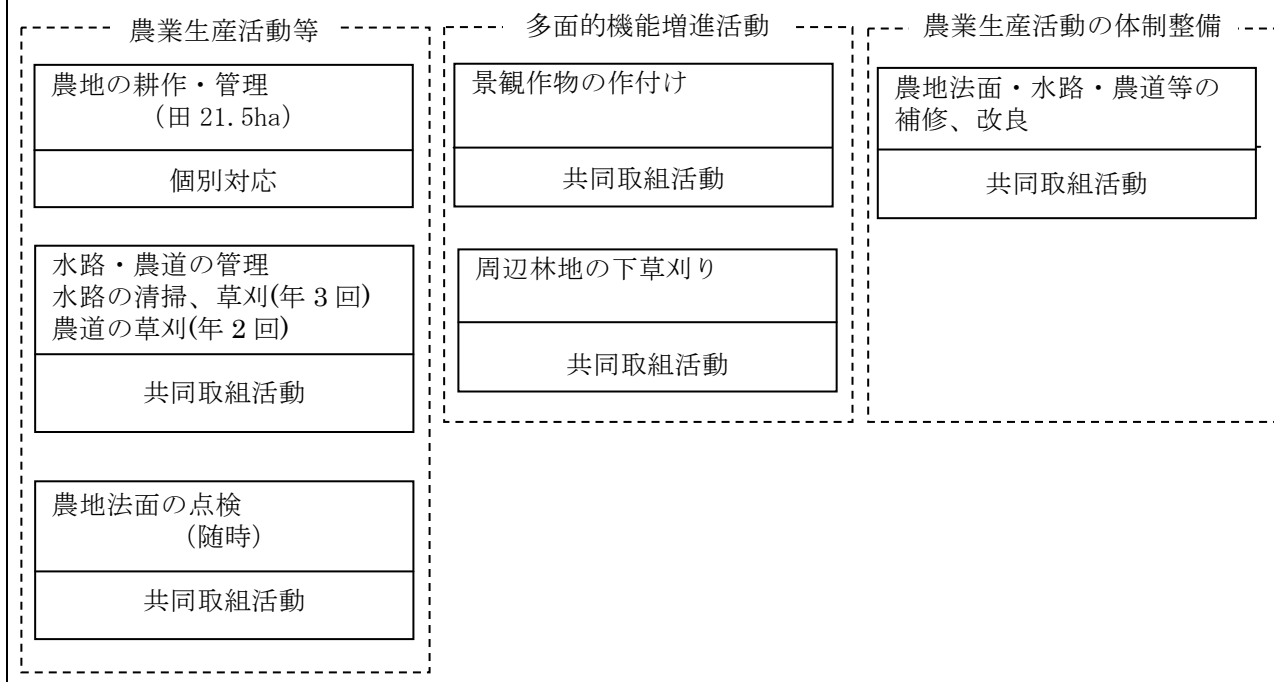
耕作放棄地の発生防止、農業の生産条件に関する不利を補正するための土地改良施設の維持管理及び施設整備を図り、個々の農地は地域の財産と捉え、美しい里山景観を次世代へ引き継いでいくため、適切な農業生産活動が継続的に行われるよう集落が全体で支え合う体制づくりを図る。



[将来像を実現するための活動目標]

- 農業用排水施設の維持補修整備を計画的に実施する。
- 直売所「おばば会」の継続的に開催する。

[活動内容]



4. 今後の課題等

藩政期から続く、外、小牧両集落による「出会いの虫送り」は、能登の里山里海の風習として貴重なものであり、地域の壮年団が集落の風習を継続的に守るため、都市の大学生を呼び込み、地域を注目させている。

今後は、農地を主とした「山・里・海」の地域資源を活用して地域の伝統を守り、美しい里山景観を次世代へ引き継がれるよう若い世代を中心とした集落営農を目指していきたいと考えている。

[これまでの主な効果]

- 遊休農地を活用した新規作物（菖蒲）の栽培及び販売 877㎡
- 定期市（おばば直売所）の開催による高齢者の生き甲斐確保
- 伝統行事「虫送り」の維持・保存及び都市住民との交流
- ため池改修による渇水対策
- 遊休農地を活用した景観作物（菜の花、コスモス等）の作付 600㎡
- 無人ヘリ・動噴による共同防除の実施